

2023 年度  
第 162 号

# 光の子

～ミッション委員会活動報告書～

目次

●メッセージ

P2 宗教主任メッセージ

P3 委員長メッセージ

●ミッション委員会より

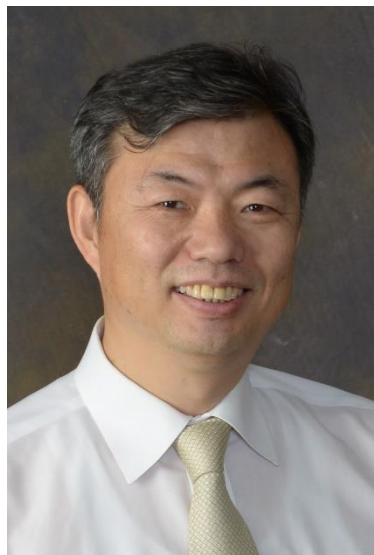
P4 献金報告

P5, 6 1年生へのインタビュー

P7 合同クリスマス礼拝

P8 ミッション委員の新しい取り組み

## 宗教主任メッセージ 「歩んだことのない道」



梅光学院大学 宗教主任 李・泳善

今から 85 年前、第二次世界大戦が起こった年にヨーロッパにいた 2 人の人の話です。1 人はジョージ 6 世と言うイギリスの王様です。もう 1 人はドイツのヒトラーです。2 人はそれぞれイギリスとドイツを率いるリーダーでした。彼らの間には大きな違いがありました。ヒトラーは演説の達人でしたが、ジョージ 6 世は吃音の障がいがあり、話すことが苦手でした。ヒトラーは演説を通してドイツの失業率が高い原因や財政崩壊のような苦しみの理由は政府、ユダヤ人、周りの国のせいだと強調します。彼の演説を通してドイツ国民の怒りが爆発します。そして後にこの集団的な怒りが第二次大戦を起こすようになります。一方、ジョージ 6 世は人前で演説することが出来ない人でした。しかし王である彼は敵を恐れる国民に対しメッセージを伝えなければなりません。

そして 1939 年のクリスマスが来ました。9 月から起こった戦争によって、国民は不安と恐怖に震えています。彼は吃音でしたがイギリスの王として国民に向けてラジオ演説をします。イギリスの王はそのスピーチの後半に、Minnie Louise Huskins の The Gate of the Year という詩を引用します。その内容はとても感動的で信仰的なものです。

And I said to the man who stood at the gate of the year:

(そして私は年の門に立っている男にこう言いました。)

‘Give me a light that I may tread safely into the unknown.’

(「未知の世界に安全に足を踏み入れることができるように、光を与えてください。」)

And he replied:

(彼はこう答えました。)

‘Go out into the darkness and put your hand into the Hand of God.

(「暗闇に出て行き、あなたは神の手を握りなさい。」)

That shall be to you better than light and safer than a known way.’

(それはあなたにとって、灯よりも良く、知っている道よりも安全です。)

ジョージ 6 世はイギリスの王でしたが、神様の前では謙遜な人でした。彼自身もこの国の未来がどうなるのか分からなかったのです。それで、彼は目に見える事よりも目に見えない神の手を握り、神様と共に暗闇に一步踏み出す道を選んだのです。

歴史は名演説家ヒトラーではなく吃音のジョージ 6 世に勝利の旗を挙げてくれました。なぜなら、ヒトラーは他人を批判し、全ての物を手に入れることに熱中でしたが、ジョージ 6 世は膝をつき神様に祈り求める事をしたからです。

2024 年は始まったばかりで、誰も歩いたことのない道です。地震や世界の紛争など不安と恐れの中に立っています。しかし私たちは祈る心を持って神様の手を握り歩んで行きましょう。

## 委員長メッセージ

ミッション委員長 幼児保育専攻 3年 井手 佳倫

2023年度もミッション委員会の活動にご協力いただきありがとうございました。

今年度も学校の皆さま、地域の方のご協力や助けによりミッション委員が守られ、活動することができました。感謝の気持ちでいっぱいです。

今年度は「ひとりが攻められればふたりでこれに対する。三つよりの糸は切れにくい。」(コヘレトの言葉4章12節、新共同訳)の聖書箇所を基に2つのことを目標として委員会全体で取り組んできました。

1つ目は一人ではできないことも仲間、神様と一緒に乗り越えようということです。活動を通して時には上手くいかず困難にぶつかってしまうときもあるでしょう。しかしそのような時、私たちはヒトではありません。先輩や友人、仲間が共にいて相談ののってくれます。そして神様も共にいてくださるということを忘れずに「三つよりの糸」のように共に活動してほしいという思いを込めました。2つ目は、ミッション委員一人ひとりが協力し、支え合って活動をしていくことです。ミッション委員会の活動は年間を通して多いためミッション委員全員が協力しなければ活動をしていくことは難しいです。またコロナ渦で希薄になっていた委員同士の関係をもう一度復活させ、委員会として良い繋がりを持ち活動をおこなってほしいと思いました。そのため一人ひとりが委員としての自覚を持ち活動に参加し

この目標に対し、とても良く活動することができたと思います。時には口を酸っぱくして言ったこともありましたが、一人ひとりが積極的に参加してくれました。また、今年度は委員の意見を取り入れ、新しい活動を行いました。ミッション委員交流会やクリスマス放送、クリスマスメッセージカードなどです。どの活動にも一生懸命に取り組んでくれた一人ひとりには感謝の気持ちでいっぱいです。また、今年度もミッション委員の活動を支えてくださった方々へ、心より感謝申し上げます。

来年度は今年度の反省点などを生かしつつ、また新しい委員会として取り組んでいくと思います。来年度もどうぞ、ミッション委員会をよろしくお願い致します。



## 2023年度 献金報告

ボランティア班長 3年 宮原 咲良

### 献金収入

サマリアデー献金				その他の献金	
4月	61,199円	10月	24,722円	クリスマス献金	66,390円
5月	36,072円	11月	38,258円	前年度前期の カフェドリンク代	77,270円
6月	32,576円	1月	40,946円	前年度前期の カフェドリンク代	59,790円
7月	30,863円				
小計			264,636円	小計	203,450円
2023年度献金額 合計					<b>468,086円</b>

### 献金支出

支出 (4月～3月)	
チャイルド・ファンド・ジャパン	144,000円
ワールド・ビジョン・ジャパン	324,000円
合計	
	468,000円

今年度も献金のご協力ありがとうございました。

来年度も皆様の厚いご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

## ☆ 1年生へのインタビュー☆

・インタビュアー：榎本 優樹



・インタビューー： 草野 雅隆



渡辺 碧人



3年生の先輩が、今年入った1年生2人にインタビューをしました！ミッション委員会は新しい仲間を随時募集中です！気になった方はいつでもご連絡ください！お待ちしております！！

### ○入ろうと思ったきっかけは？

榎本：なんで入ろうと思ったの？

渡辺：榎本さんが楽しそうに活動していたので笑

榎本：それはうそやろ～笑笑  
本当はなんで？？

渡辺：本当ですよ笑 先輩たちの活動を見て楽しそうだと思ったので。

草野：僕は、キリスト教実践演習で選択課題としてあって、興味があったので選びました。

榎本：確かに、授業で知る機会、選ぶ機会があると興味をもちやすいよね。

### ○ぶっちゃけミッションの印象は？

榎本：ちなみに、ぶっちゃけ

ミッション委員会の印象はどう？

渡辺：先輩と垣根なくいっぱい話せることです。

榎本：そうしてもらえるのは嬉しいね！

俺がおるからって遠慮してない？  
笑

渡辺：そんなことないっすよ笑

どの先輩方も優しく、いつも充実しています！

榎本：いつもほんとにありがとうね～笑  
草野くんはどう？

草野：僕は、広報班だったのでスライドを作るのが早くなったことですかね。  
また、スライドを見やすいものをつくる

○1年間で一番印象に残った活動は？

榎本：1年間で一番印象に残った活動はある？

草野：2QにあったBBQですかね。

榎本：確かに！

今年初の試みだったんだよ！  
楽しんでもらえてよかった！

渡辺：僕は、月に1回のBCCですね。

榎本：おお、そうなんだ！それはなんで？

渡辺：毎月来る先生が変わって、毎回話が面白いので印象に残ってますね。

榎本：ゲストは世界各地からいらっしゃるから、知識も広がるよね。

○1年活動してきたの感想を！

草野：先生との関わりが増えたことですね。

また、色々な学年、所属の人とお話することが増え、友好関係も広がりました。

来年からもより「楽しい」を重視した

委員会になるように頑張ります！

渡辺：支援チャイルドの献金活動を通して、支援チャイルドとその国のことを知ることができました。

学生のうちから幅広い視野を得たい人にはうってつけの委員会だと思います。

読んでくださったみなさん、ミッション委員会でお待ちしています！！

榎本：お2人今日はありがとうございました。

2人：ありがとうございました！！



# 合同クリスマス礼拝

日時：12月20日（水）17：30～

会場：下関市民会館

発表者：大学生（Baiko Quire）、高校生、中学生、幼稚園生

12月20日には、ミッション委員にとって大きな行事である、クリスマス礼拝が行われました。今年度は、開校150周年を祝う特別な礼拝となり、下関市民会館という大きな会場で行われました。大学生、高校生、中学生、幼稚園生など梅光に通う、多くの人の発表がありました。

まず会場に入ったときに、BGMとして、高校生によるハンドベルの演奏がありました。とても綺麗な音で、クリスマスの雰囲気盛り上げてくれました。

次に、オープニングとして、大学生のBaiko Quireによる「み空をはせゆくみ使いたちよ」という賛美がありました。一生懸命に練習をしていたことを知っていたため、とても身近に感じることができました。練習の成果が発揮された、とても良い発表だったと感じました。

その後、幼稚園の園児による特別賛美がありました。園児ならではの可愛さで、その場にいた全員が癒されました。

次に、中学校・高等学校の生徒有志による劇が行われました。その劇の内容は、敵同士であるイギリスとドイツが、クリスマスの日だけは戦うことを止め、一緒に祝ったというものでした。戦争中というピリピリした状況の中では、通常ありえないことだと思います。しかし、それはクリスマスが、イエス様がお生まれになった日だからという特別な理由がありました。イエス様が生まれたクリスマスにはそれほどの価値があり、たとえ、敵国の兵士同士でもお祝いしようという気持ちには、イエス様の存在の大きさが表れていると感じました。また、劇の中で平和に対する切実な願いが現れていて、今起こっているさまざまな争い事に関しても考えさせられました。

その後、学院長の樋口紀子先生からクリスマスメッセージがありました。聖書を読みながら、クリスマスの始まりについて学びました。

最後には、会衆賛美を行いました。賛美歌は全世界的に愛されている「きよしこの夜」で、ペンライトや、スマートフォンのライトを使う演出が大変綺麗で、盛り上がりました。

今回のクリスマス礼拝は、150周年という大きな節目の礼拝であり、大きな会場や演出も相まって、例年以上に特別な礼拝になったと思います。上に挙げたすべての発表や、樋口先生のお話から、救い主の降誕について改めて考え、会場に集まった全員でお祝いすることができました。

## ミッション委員の新しい取り組み

今年度はミッション委員の新しい取り組みとして3つのことを行いました。1つ目は、ミッション委員交流会、2つ目は教職員の方へクリスマスメッセージカードを作成してもらうこと、3つ目は、クリスマス放送です。

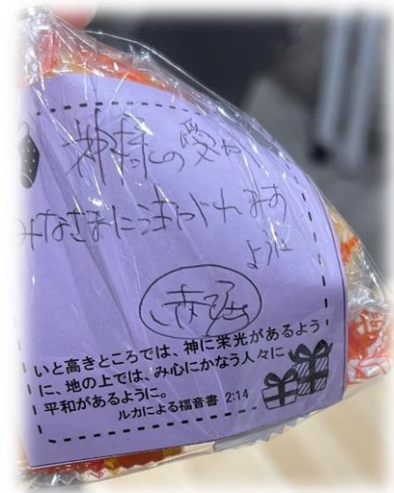
### ミッション委員交流会について

コロナウイルスの規制が緩和され、何かミッション委員同士での交流が深まることを企画したいと思い、この企画を考えました。大学のかまどベンチを使用し、BBQを行いました。また、ミッション委員に日頃協力していただいている教職員の方も呼びました。ミッション委員交流会を通し、前期の活動の反省や良かったことなど意見の交流をすることもでき、普段は関わることができない人とも関わりを持つことができました。また、委員会の仕事以外の話をすることもでき、とても有意義な時間になったと思います。



### クリスマスの新しい取り組みについて

毎年行っている、「クリスマススペシャルアドベントチャペル」でのお菓子の配布を今年も行いました。毎年、小袋にお菓子を詰め、メッセージカードと共に礼拝に参加してくれた人たち全員に配ります。ミッション委員会の学生たちや、大学内の教職員の方々にも協力して頂き、一つ一つの袋に世界で一つだけのオリジナルメッセージが入っていました。合計約300個のメッセージ付きお菓子を作ることが出来ました！教職員の方々からメッセージを頂くことはなかなかないので、学生からはとても好評でした。



### クリスマス放送について

12月7日(木)、12月12日(火)、12月14日(木)に学校全体でクリスマスの雰囲気が感じられるよう、クリスマスの行事をお知らせする放送とともに、2限目終了から礼拝前までの時間にクリスマスにちなんだ音楽を流しました。過去のクリスマス礼拝の賛美映像なども活用し、梅光学院大学の過去のクリスマス行事を懐かしむ声も上がっていました。クリスマスは梅光学院大学で行われるイベントの中でも特に力を入れて取り組んでいます。これらの取り組みを通して、クリスマスという特別な日に関心を持って過ごしてくれた人が増えたのではないかと感じています。